
けいおん!&リリカルなのは LOVE!GENE!RADIO!

伝説・改

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

けいおん！&リリカルなのは LOVE！GENE！RADIO！

【Nコード】

N9781M

【作者名】

伝説・改

【あらすじ】

これは、「けいおん！ LOVE！LOVE！LIVE！」シリーズを元にしたよくあるラジオ風小説です。

簡単に言えばらじおん！のけいおんLEE！バージョンです。暇な時でもどうぞご覧下さい。パーソナリティは日暮遼祐と平沢唯でお送りします。

感想制限でユーザーのみになっていた制限を解除しました。

皆さん、是非感想をください！

2 不定期更新です。

第0回「登場人物紹介つてのはたまにとんでもないネタばれがあったりする」

名前：日暮 遼祐 ひぐらし りょうすけ

詳細：『けいおん！ LOVE！LOVE！LIVE！』『けいおん！ LOVE！LOVE！LIVE！アンコール！！』の主人公。そしてこのラジオのパーソナリティの一人だが、イマイチ乗り気じゃない。（多分）

オタク・女好き・ヘタレ・ツンデレで簡単に言えば西條拓巳と当真大河を足して白銀武で割った様な人物である。

女好きだが絶対に浮気はせず、唯の事を表にはあまり出さないが溺愛している。

イメージCVは前野智昭。どうりでヘタレな訳である。（冬弥的な意味で）

名前：平沢唯 ひらさわ ゆい

詳細：『けいおん！ LOVE！LOVE！LIVE！』『けいおん！ LOVE！LOVE！LIVE！アンコール！！』のメインヒロイン。

このラジオのパーソナリティの一人で、かなり乗り気。天然でドジっ子で貧乳と言う好きな人はとことん好きそうな属性を持っている。だがそれがいい。

ちなみに遼祐一筋で、遼祐も唯一筋である。このバカップルドもめ。

CVは豊崎愛生。多分彼女が一番のハマり役だと思う。

この二人が、本ラジオのパーソナリティである。

……本当にこの二人に任せて大丈夫なのだろうか？作っている本人も心配になってきた。

第1回「何事も最初が肝心。だけどここのグダグダ感は正直どうよ?」

遼祐「えつとだな……唯、何これ?」

唯「ここはラジオ番組を収録するブースだよ、りょうくんなら分かると思うけど……」

遼祐「いやそれは分かってる。しかし!しかしだな!なんで小説でラジオなんだ!?」

唯「しょうがないよ。作者さんがうたわれるものらじおとらじおん!を聞いた影響でやつちやったから……」

遼祐「なんでお前が裏事情知ってんだ。って言うか作者いいかげんにしろ。……その前にどうせどこかのとあ新らじおでも見て思いついたんだろ?」

唯「始めた理由も一緒だしね」

遼祐「このままパクリとか言われて消されても知らんから俺は」

唯「じゃあ、始めよつか!」

遼祐「もうやるの!?」

遼祐「けいおん!」

唯「LOVE! LOVE! RADIO!」

遼祐・唯「始まるよ!」

OP (U t a u y o ! ! M I R A C L E)

遼祐「えつと、こんにちは。『とりあえず』パーソナリティーの日暮遼祐です」

唯「こんにちは〜!パーソナリティーの平沢唯です!」

遼祐「……なあ、やつぱ痛いわ。うん、痛い」

唯「まあまあ、ゲストさんがくればきつと大丈夫だよ」

遼祐「そういう問題なのかよ……」

唯「えっと、じゃあゲストは……あれ、今日はいないんですか？」

遼祐「マジかよ……こんなグダグダ展開で大丈夫かよ……」

唯「まあきつとね、うん。大丈夫だよ」

遼祐「……本気で心配になってきた」

唯「えっと、このラジオ（小説）は『けいおん！ LOVE！LOVE！LIVE！LIVE！』及び『けいおん！ LOVE！LOVE！LIVE！アンコール！』の情報をお送りするラジオ（小説）です！」

遼祐「他にもゲストを呼んでトークしたり裏事情を話したりします」

唯「第1回だからゲストは無しだから……りょうくんと二人でラブトークしまゝす」

遼祐「いやしねえから」

唯「……ケチ」

『じこしょうかいこゝな〜！』

遼祐「このコーナーは、パーソナリティの俺や唯、そこでゲストが自己紹介して俺が毒舌でツッコむコーナーです」

唯「最後の方は違うよ〜！」

遼祐「えっと、じゃとりあえず唯から」

唯「え〜、りょうくんからだよ〜。主人公じゃ〜ん」

遼祐「あのだな、こういう小説は、基本ヒロインがメインなの。主人公はあくまで視聴者の代わり。おk？」

唯「じゃあ……3年2組、軽音楽部所属の平沢唯です。ポジションはギターです。好きな物は甘い物とりょうくんです？」

遼祐「俺は食べ物扱いか。って言うかそれは普通俺が言わなければならぬだろう」

唯「……」

遼祐「何この空気……」

唯「え、えっと、うん。以上です」

遼祐「そんだけ！？もうちょつとないの！？」

唯「えゝ、どんな事言えば分かんないよゝ」

遼祐「ほらあるじゃん。毎日家でゴロゴロしてるとか」

唯「ゴロゴロしてないよゝ。ちゃんとギターで練習してるんだよゝ！」

遼祐「まあそりゃ分かってるけど。ああ、あれはどうよ？毎日俺とゲームすると負けるとか」

唯「だってりょうくとゲームすると全部強いんだもゝん、まるでわたしの行動が分かっているみたいなんだよ？」

遼祐「お前の動きがワンパターンなだけ。……他にはなんかなかったっけ？」

唯「うゝん……まあいいや。じゃあ次はりょうくん！」

遼祐「もう俺かよ。えっと、3年2組軽音部所属の日暮遼祐です。ポジションは唯と同じくギターです。……以上」

唯「それだけ！？」

遼祐「他に言う事ないだろ。何言えばいいんだ」

唯「好きな食べ物とか、名前の由来とか」

遼祐「あゝ……あんまりにもノーマルだけどいいか。好きな食べ物はフライドポテトとステーキ丼で、名前の由来は……まあプロフィール見て」

唯「ちゃんといいなよゝ」

遼祐「だるいんだよ。……えっと、名字の日暮はゲーム『ひぐらしのなく頃に』からで、名前の遼祐は『頭文字D』の高橋涼介からだって」

唯「二つとも作者さんが好きなアニメとゲームだね？」

遼祐「元々俺の存在はな、作者が作った別の小説で既に作られてたんだよ。作者無駄に俺の事気に入ってるから。気に入ってると言う

か主人公らしい人物が俺しかいないからだって」

唯「……それって考えるのが面倒だっただけじゃ？」

遼祐「……ごほん、そういえば唯の名前も、確か平沢進って人から来てるんだよね？」

唯「うん。P - MODEL って言う実在する音楽グループにいる人からなんだよ」

遼祐「じゃあ俺やオリキャラの浩史とか白銀ってかなり関係ないところから来てるんだな……なんか悲しい」

唯「うゝん、そくだ！新しい名前考えてみようよ！」

遼祐「今から！？……でも福岡とか三浦以外な」

唯「どうして？」

遼祐「同じ名前のオリ主がいるから」

唯「？」

遼祐「……なんでもない、とりあえず今考えたってしょうがないだろうに」

唯「そくだよねゝ」

遼祐「そくだよねじゃねえよまったく……」

『みんなのしつもんこな〜！』

唯「このコーナーは、読者のみなさんから寄せ集められた質問に答えるコーナーだよ！」

遼祐「ちよい待ち」

唯「どうしたの？」

遼祐「読者のみなさんから……一通もないぞ？」

唯「うん。だから今回は作者さんが適当に質問を作って、それに答えるんだって。あと、作者さんの友人さんからの質問も出るって」

遼祐「……なんだろう、質問が作者が作った物だけになりそうなのがしてきた」

唯「じゃあまず最初の質問！これは作者さんの友人からの質問だよ」

【どうして『けいおん！ LOVE！LOVE！LIVE！』を作ろうと思ったのですか？】

遼祐「俺たちに聞いてどうすんだよそんな事！作者に聞けよ！！」
唯「まあまあ。いちおう、わたしたちも知ってるんだから……」

遼祐「そりゃそうだが。……おほん、企画自体はけいおん！が放送された当時からあったんだけど、小説を作っても投稿する場所を作者が知らなくてそのまま放置だったんだけど、けいおん！！が放送されてオリ主小説を作者が見ているときに、この『小説家になろう！』を知って、作り始めたんだってよ」

唯「ちなみに当初はたまに言ってるハーレムルートにしようと思ってたらしいよ。……ねえねえりょうくん」

遼祐「どした？」

唯「はーれむって何？」

遼祐「俺や某救世主が目指してるもの」

唯「？」

遼祐「……さて、もういいだろう。次のコーナーへ行こう」

唯「もういいの！？」

遼祐「だってこれぐらいしかないだろ友人の質問。それに作者の作った質問なんか意味ないじゃねえか」

唯「そうだよね……」

遼祐「と言う訳で、ここまでで。次のコーナーへGO！」

『けいおんLLLL！いんふおめくしよん！』

遼祐「このコーナーは、『けいおん！LOVE！LOVE！LIVE！E！』（以下けいおんLLLL！）や原作の（漫画・アニメを含む）けいおん！の最新情報についてのコーナーです！」

唯「りょうくんノリノリだね」

遼祐「はっ！つい！」

唯「あずにゃんみたいな言い訳はよしなによ」

遼祐「いい訳じゃないんすけど……」

唯「えっと、今回は何の情報についてなの？」

遼祐「なんと！原作漫画本のけいおん！の第4巻が発売決定しました〜！」

唯「お〜」（パチパチ）

遼祐「……以上」

唯「えっ！？」

遼祐「嘘だよ。実はな、最近なんと！このけいおんLLLL！と、鮮血の刻印先生の作品『けいおん！Fragment』のコーボ小説『けいおん！Cross of Lives！』の第1話が公開されました〜！」

唯「すごい！じゃあお兄ちゃん（英樹）とりょうくんが同じところにいるの！？」

遼祐「ああ。他にも両作のオリキャラも登場するよ」

唯「すごいね〜、楽しみだよ〜！原作本も楽しみだな〜」

遼祐「原作本の方は、9月27日発売予定だつて。みんな買ってね〜！」

唯「ねえりょうくん」

遼祐「どした〜？」

唯「……勝手に宣伝しちゃっていいのかな？」

遼祐「……次のコーナーへ」

唯「えっ！？」

『ゆいちゃんのかわいいせりふこ〜な〜！』

唯「このコーナーはわたしが可愛いと思う様な台詞を言うコーナーだよ〜！」

遼祐「……ただの唯ファンの為のコーナーじゃないか」

唯「酷いよりようくん！やっぱりわたしのファンじゃないんだね！」

遼祐「いや、ファン以上の関係だろうが俺ら」

唯「いや〜ん、そんなはつきり言わないでよ〜」

遼祐「はい台詞ゲット」

唯「そういうコーナー！？」

遼祐「まあ今のは冗談として。唯にぜひ言ってもらいたい台詞を募集して、それを言うコーナーだよ」

唯「なるほど。じゃあ今回はないんだね？」

遼祐「あるよ。俺がお前にどうしても言ってほしい台詞がある」

唯「どんなの？」

遼祐「『わたしを、りようくんの物にしてください……！』」

唯「……」

遼祐「ダメ？」

唯「……」

唯「わ、わたしを……りようくんの物にしてください……！」

遼祐「……これで毎日のおかずに困らなくなるな」

唯「え？これってりようくんのご飯になるの？」

遼祐「え？あ、う、うん。そうそう。俺の飯になるんだ〜、あはははは」

唯「そうなんだ〜」

遼祐「他にも、こんな感じでどんどん募集しますので、ぜひ応募してくださいーい！」

唯「まってま〜す！」

『ふり〜と〜くー！』

遼祐「フリートークって……何話すんだよ」

唯「ほら、あの事」

遼祐「あれって?……ああそうだった」

唯「このラジオは読者参加型で、感想の所にさっきの可愛い台詞コーナーで言っただけの台詞や小説の質問などを言ってくれればそれを実際に答えたり採用したりします。他にもやってほしいコーナーも募集してまゝ」

遼祐「どしどし応募してね」

唯・遼祐「……」

遼祐「だけ?」

唯「……何かあるでしょ」

遼祐「何かあるでしょじゃねえ!!探せ!!」

唯「あ、そうだ!次からはゲストの人が来てくれるよ!」

遼祐「確か次は……漣だったっけ?」

唯「大変だったんだよ、漣ちゃんをこのラジオに出演させるの」

遼祐「まあなあ、耳ふさいで大泣きしながら嫌がってたもんな」

唯「うん」

遼祐「……以上。フリートークのコーナーでした」

唯「え!?もうちょっと話そうよ」

遼祐「お前がそこで終わらすからだろうが!!ちゃんと話を繋げろ!」

唯「だって」

遼祐「まあこれからきちんとしてくれればいいよ」

唯「優しいね、りょうくん」

遼祐「……ほっとけ」

遼祐「と言う訳で、終わりの時間がやってきました」

唯「早いなあ、あつという間だったよ」

遼祐「結構、ラジオも楽しいな」

唯「ふふふん、そうですね?」

遼祐「なんでそんなに得意気なんだよ。思いついたのお前じゃないだろうに」

唯「まあそうだけど……」

遼祐「……とまあこんな感じで、これからも続けていきたいと思いまゝす」

唯「これからも、応援してねゝ!」

遼祐・唯「それじゃあ、またねゝ!」

第2回「恥ずかしがり屋はクラスに一人はいる。同時に仲良くなれば恋愛フラダ

漣にあんな設定加えてごめんなさい。

でもやってみたかったんだ。ホントすいません。

第2回「恥ずかしがり屋はクラスに一人はいる。同時に仲良くなれば恋愛フラグ

遼祐「奇跡の2回目だよ。マジで凄いよね」

唯「そうかな？わたしはずっとやるって思ってたよ」

遼祐「そもそも感想が来たって言う事が凄いのと思う」

唯「りょうくん、そんなに捻くれてたら嫌われちゃうよ？」

遼祐「誰に？」

唯「……じゃあ、始めよつか」

遼祐「あゝ、ちよい待ち！！悪かった！俺が悪かったから！！その前に漣は！？」

漣「……あゝ、ちようちよだゝ」

唯「み、漣ちゃん！戻って来て！！」

遼祐「けいおん！」

唯「LOVE！LOVE！RADIO！」

漣「はははははは、始まりましゅ！！」

OP）（U t a u y o ！！M I R A C L E）

遼祐「えゝ、皆さんこんにちは。パーソナリティの日暮遼祐です」

唯「同じくこんにちは！パーソナリティの平沢唯です！」

遼祐「それにしても、まさか2回目だよ。案外評判はよかったね」

唯「本当にみんなありがとうねゝ！」

遼祐「俺はてつきりパクリとか言われるかと思った」

唯「……ホントにひねくれちゃってるね」

遼祐「ほつとけ。では、今日のゲストを紹介します！放課後ティ―タイム一の極上美女ボーカル&ベース、秋山漣です！！」

漣「……」

唯「漣ちゃん！あいさつ！！」

漣「あ、ああああ、秋山漣でしゅしゅ！！よろしきゅおねぎやいしましゅ！！」

遼祐「ま、まあ落ち着けて漣」

漣「ただ、だってこれ色んな人が見てるんだろ！？ももも、もし律達が見てたら……はうっ！」

遼祐「大丈夫だって、とりあえずほら、お茶でも」(コト)

漣「う、うん。」(ズルル…)

唯「ムギちゃんからのお茶だよ。どう？」

漣「……美味しい。ちよつと落ち着いたかな？」

遼祐「なら良かった。そんじゃ、早速行きますか」

漣「えっ！？もう行くの！？」

唯「……お茶の効果が無くなった」

『じこしょうかいこ〜な〜！』

遼祐「パーソナリティの俺や唯、そこでゲストが自己紹介するコーナーで〜す」

唯「わたしたちはこの前したから、今日からはゲストさんがするんだよね？」

漣「わ、私が自己紹介するのか！？」

遼祐「大丈夫だよ。ラジオで聞いている奴はみんな律とも思えばいい」

漣「……なんだか想像すると腹が立ってきた」

唯「そうそうそれだよ！じゃあこの調子でやってこ〜！」

漣「う、うん。えっと、秋山漣です。3年2組で所属は軽音部です。楽器はさっき言った通り、ベースでボーカルもやっています」

唯「漣ちゃんのボーカルはいいよね〜。ベースもすごく上手いからファンクラブが出来ちゃった程なんだよ〜」

遼祐「すごいよね〜、ホント」

漣「……」

唯「あれ？ 澪ちゃん？」

遼祐「……フアンクラブの事思い出して気絶したらしい」

唯「み、澪ちゃん！ 目を覚まして……！」

澪「……はっ！ なんだ、さっきまでやってたラジオは夢だったのか。そうだよな、私がラジオなんてな……」

遼祐「だんだん現実逃避し始めたよこの子」

澪「ただだだっ！ フアンクラブのみんなはきっとこのラジオ聴いてるはずだから……はうっ……！」

唯「……なんだろう、だんだんグダグダになってきた様な気がするよ」

遼祐「大丈夫だよ、元々グダグダだから。それじゃ、次のコーナー行きま〜す！」

『みんなのしつもんこ〜な〜！』

唯「さあやってきました、質問コーナー。みなさんから頂いた質問を早速読んで行きたいと思います！」

遼祐「じゃあ早速……。おっ、凄い人からの質問だな！」

澪「誰からなんだ？」

唯「澪ちゃんがいつのまにか復活してる……！」

遼祐「軌融屢先生だな。正しく言えば軌融屢先生の小説に出てくるオリキヤラからの質問だ」

唯「へへ、そうなんだ」

遼祐「んじゃ早速……え」

澪「どうした？」

唯「早く読んでよ」

遼祐「……」つ質問が書かれた紙

澪「どれどれ……はうっ……！」

唯「ふむふむ、えつとねあの時のりょうくんが一番好きだ「やめるバカ……」え……？」

遼祐「え〜？じゃねえだろ！！こんな質問流せるかバカ！！」

漣「え？って言うか二人とも……はうつ！」

唯「漣ちゃんがどんどん爆発していつてる！！」

遼祐「……えっと、この質問の内容は、このラジオの軌融屡先生の感想をご覧ください」

遼祐「んじゃ気を取り直して……、今度も凄い方から」

唯「だれだれ〜？」

遼祐「僚介先生からの質問。えっと……」

【遼祐君に一つ質問！好きなモノはなんですか？】

唯「食べ物かな？」

漣「唯は食べ物から離れる」

遼祐「そうだな……まあ、ゲームだね。ギャルゲーとエロゲー。そ
んで……唯」

唯「りょうくん……」（ポツ）

遼祐「はまあ好きと嫌いの間だな」

唯「えー！？」

遼祐「……嘘だよ。唯が一番好きです」

唯「わ〜い！！わたしもりょうくん大好き〜！！」

遼祐「（ああ、俺はこうして一生こいつとこんな感じですよ〜して
いくんたろうなあ……、肩凝りそうだ）」

漣「……じゃあ次の質問行ってみようか。私が読むけどいいな？」

唯「うん！」

漣「えっと、これも僚介先生からだ」

【自分がかわいいと思う動物は？】

唯「わたしは〜……なんだろうな〜？全部大好きかな？」

遼祐「へへ、蛇も？トカゲも？ワニも！いやあああああー！」
ああ、悪かったから漣！落ち着けー！」

漣「……ごほん、えっと、私はそうだな……可愛いものが好きだな」
唯「わたしもー！」

遼祐「可愛い動物か……ウサギとか？」

唯「あとパンダとか熊とかブタとか！」

漣「犬や猫も好きだな」

遼祐「なるほどねえ……ちなみに俺も犬は好きだな」

唯「りょうくんも動物好きなんだー！」

遼祐「そりゃあ……ねえ。まあ人並みには好きだけど。でもなんで？」

唯「りょうくんはなんとなくそういうのに興味無さそうな感じがしたんだ」

遼祐「笑顔でそういうなよ。なんか悲しいから」

漣「以上、質問コーナーでした」

唯「はやー？」

遼祐「そしていつのまにか漣が仕切ってるよ！？」

『けいおんLLLL！いんふおめーしょん！』

遼祐「えっと、このコーナーは、『けいおん！LOVE！LOVE！LOVE！LOVE！』（以下けいおんLLLL！）や原作の（漫画・アニメを含む）けいおん！の最新情報についてのコーナーです！」

唯「あ、そうだ！早速最新情報があるよ！」

遼祐「なんかあったか？」

唯「アニメ、『けいおん！！』の新OPとED『Utau yo！！ MIRACLE』と『NO Thank You！』が発売しましたー！」

遼祐「……」

漣「しかも売り上げの方はOPは第3位、EDは第2位の大快挙だ」

遼祐「……」

唯「でも残念だったな、一位取りたかったな」

漣「仕方ないよ。SMAには流石に勝てるわけないよ。でもこれでも十分な結果だと思うぞ？」

唯「そうだよな！ね、りょうくん！」

遼祐「……」

唯「どうしたの？」

漣「待て唯！アニメの方のけいおんには遼祐が出てないから……」

唯「あ！そうだった、ごめんりょうくん！！」

遼祐「……いいさ、いつかけいおんLLLL！がアニメ化する事を俺は祈ってるから」

唯「（それは……）」

漣「（多分……）」

遼祐「無理だよ、分かってるよ。分かってますよチキショー！！」

唯「心の中が読まれてる！？」

遼祐「……ああ、そうだった。えっと、次回のゲストなんだけど……」

……

唯・漣「立ち直ってる！？」

遼祐「次回のゲストは、梓だ」

唯「わーい！次はあずにゃんだー！」

遼祐「そしてもう一人いる」

漣「誰なんだ？律かムギか？」

遼祐「いいや。……みんなもびっくりのあの人だよ」

唯「だれだれだれー！？」

遼祐「それは次回をお楽しみに。以上、けいおんLLLL！いんふおめーしょん！でした」

『りょうくんのおすすめゲーム&アニメこーな〜！』

唯「このコーナーはりょうくんがお勧めするゲームやアニメを紹介

するコーナーだよ!」

漣「今回から始まる新コーナーなんだな」

遼祐「まあな。唯の台詞コーナーは次回で」

唯「ねえねえ、どんなの紹介してくれるの?」

遼祐「えつと、今回はゲームなんだけど……こちら、戦国BASARA 3です!」

唯「お、最近りっちゃんがハマってるゲームだ!」

漣「私も持つてるぞ。歴史上に実在する武將を大胆にアレンジして爽快アクションゲームだよな?」

遼祐「ああ。男性だけじゃなくて女性ファンも多くな。ちなみに最近作者もハマってる」

唯「だから更新がおろそかなんだ最近」

漣「まったく、ちゃんとしないとダメじゃないか」

遼祐「まあまあ。面白いんだから仕方ないよ。さて、まだ発売して日が経ってないからあんまり詳しい事は言えないけど、面白いよ!」

唯「みんな買ってるね!」

漣「……前もそうだったけど、勝手に宣伝していいのか?」

遼祐「……えつと、次もゲームなんだけど」

漣「流すな!って言うか次もあるのか!?」

遼祐「デュエルセイヴァーデスティニーって言うPS2のゲームだ」
唯「どんなゲーム?」

遼祐「恋愛シュミレーションとアクションゲームを合わせた変わったゲームなんだけど、簡単操作で爽快アクションが出来るゲームだ」
漣「へ」

遼祐「後、ストーリーも壮大でな。最後の少年誌的熱血展開には鳥肌全開だったな」

唯「おもしろそうだな、わたしも買ってみようかな」

漣「……あ、確かこれを作ったスタッフって他にもアクション+恋愛ゲーム作ってるよな?」

遼祐「よく知ってるな。バルドフォースエグゼとバルドバレットイ

クリブリアムってゲームも作ってる」

唯「漣ちゃん詳しい」

漣「いや、歌詞の参考に恋愛ゲームとかはよくプレイしてるから…」

…」

遼祐「……あ、だからマブラヴとかも知ってたんだ」

唯「以上、りょうくんのおすすめゲーム&アニメコーナーでした〜
！」

遼祐「と言う訳で、終わりの時間がやってきました」

唯「漣ちゃん、初めてのラジオどうだった？」

漣「最初は恥ずかしかったけど、馴れると楽しいな」

唯「また来てね！」

漣「うん！」

遼祐「そんじゃ、そういう事で」

遼祐・唯・漣「またね〜!!」

第3回「バカップルとよく喧嘩する男女は紙一重」(前書き)

バカップル警報発令中。

第3回「バカップルとよく喧嘩する男女は紙一重」

遼祐「……」

唯「どうしたのりょうくん？なんかテンションが低いよ」

遼祐「いや……なんか今日のゲストがさ……うん」

唯「あ、そういえばあずにゃんと、あともう一人のゲストさんって誰なの？」

遼祐「……多分そろそろ来ると思う」

梓「せんぱい！」

唯「あつ、あずにゃんだ〜！」

梓「先輩！紹介します！私の彼氏です！！」

英樹「よ、二人とも」

唯「お兄ちゃん……って、もしかして……」

遼祐「梓と、そもでもう一人のゲストは……昨日梓と見事に結ばれた英樹さんだよ」

英樹「じゃあ、今日はよろしく頼むな、二人とも」

唯「わ〜い！今日はすっごく楽しいラジオになりそうだね！」

遼祐「なんだろう、この合コンっぽいノリは」

遼祐「けいおん！」

唯「LOVE！LOVE！RADIO！」

英樹・梓「始まるよ〜！」

OP（Utayoyo！！MIRACLE）

遼祐「みなさんこんにちは。パーソナリティの日暮遼祐です」

唯「同じくこんにちは！パーソナリティの平沢唯です！」

遼祐「それにしても……もう夏だね」

唯「だね〜、もう毎日家でわたしゴロゴロしてるよ〜」

遼祐「だらけとるの……さて、今日のゲスト、紹介しますか。今日のゲストは、中野梓と、灘宮英樹さんです！」

梓「よ、よろしくおねがいします！」

英樹「よろしく」

唯「お兄ちゃんは、鮮血の刻印さんが作ってる小説「けいおん！Fragment」の主人公なんだよね！」

英樹「ああ、後、伝説・改先生との合作、「けいおん！Cross of Lives」の主人公の一人でもあるな」

遼祐「ちなみに俺もだぞ」

唯「凄いよね、りょうくんとお兄ちゃんが同じ世界にいるなんて素敵だよ。天国だよ」

梓「私もです！」

遼祐「お前は英樹がいればどこでもいいんだろ？」

梓「な、そ、それは……まあ、いいえって言ったらウソになります」

英樹「……」（照れてる）

唯「二人ともラブラブだね。わたしたちも負けないよ！」

遼祐「（大丈夫かよ、今日のラジオ。ただのバカップルのお話になるんじゃない？）」

唯「じゃ、最初のコーナーに行こ！」

『じこしょうかいこ〜な〜！』

遼祐「このコーナーは、ゲストの人が自己紹介をするコーナーです」

唯「じゃあ行こっか、まずはお兄ちゃん！」

英樹「俺からか？梓からでいいんじゃないか？」

梓「い、いえ。英樹さんからお願いします……」

英樹「そうか？じゃあ……、名前は灘宮英樹で、今は大学の医学部に通ってる」

遼祐「へ〜、んじゃ将来は医者なんですか？」

英樹「いや、科捜研に勤めたいと思ってるんだ」

唯「かそけけん？りょうくん、何それ？」

遼祐「お前ドラマとか見ないわけ？」

唯「うん……崖っぷちのエリアなら見てるよ！」

遼祐「……科捜研と言うのはだな、例えば殺人事件が起こるだろ？」

唯「うんうん」

遼祐「それで、現場にある色んな物からDNAや指紋とかを分析して、犯人を割り出す手掛かりを見つけたりする人達の事……ですよ
ね英樹さん？」

英樹「まあ間違っでは無いな」

唯「凄いいねお兄ちゃん！そんな所に行くなんて！かつこいいよ！」

英樹「そうかな？」

梓・遼祐「……」

唯「あ、りょうくんもりょうくんですつこくかつこいいよ！」

英樹「いや、違うんだ梓！これはだな……」

遼祐「んじゃ、次梓ね」

英樹「聞いてくれえ……」

梓「中野梓です。軽音部で2年1組所属です。楽器はギターをします」

遼祐「それで軽音部のいじられキャラパート2だ」

梓「そ、それは言わないでいいです……」

唯「まあまあ、あずにゃんが可愛いんだよ」（ギョ）

梓「……ま、まあいいです」

英樹「……遼祐」

遼祐「……どうした英樹さん」

英樹「……梓、唯と結婚した方が幸せと思ってきた」

遼祐「奇遇っすね英樹さん。俺もそう思いました」

梓「英樹さん違いますよ！これはその……」

唯「じゃあ次のコーナーです！」

梓「唯先輩も否定してくださいよ……」

『みんなのしつもんこゝな〜!』

遼祐「このコーナーは、みなさんから頂いた質問に答えるコーナーです!」

唯「えつとじゃあ早速最初の質問を……あ、鮮血の刻印先生からの質問だ!」

英樹「まさか、あの質問か……」

梓「どんな質問なんですか?」

唯「読むね。えつと……」

【最近はどうな番組を見えていますか?】

英樹・梓「プツ」

遼祐・唯「何と言うシンクロ率!? 流石バカップル!!」

英樹「お前たちに言われたくはない!」

唯「……おほん、じゃありょうくんはどんなテレビ見るの?」

遼祐「そうだなあ……ほとんどバラエティとドラマとアニメぐらいだな」

英樹「ニュースぐらい見ろ」

遼祐「いや、新聞読んでますし」

唯・梓「意外と読んでたんだ!?!」

遼祐「失礼な。俺だってちゃんと世の中の事ぐらい分かるわい」

唯「ふ〜ん。あ、バラエティとかドラマとか具体的にどんなの見るの?」

遼祐「そうだなあ……、あれだ。表にするとこんな感じだな。

月曜日 なし

火曜日 火 サプラズ た しのみんなの 学 ジョー

水曜日 なるほ 百景 ねるのとら

木曜日 いきな! 黄金 説 搜研の

金曜日 ド えもん クレ ンしんちゃん Mス
土曜日 ちゃイケ 松 の な話 名探 コナン (録画
でメジ ー)
日曜日 仮面ライ ー W 戦国BASAR 弐 サザ さん ま
ちゃん 鉄腕ダツ ュ

遼祐「こんな感じ」

梓「先輩らしさが全開ですね」

遼祐「いいだろうが!!好きなんだから!!」

英樹「ドラマは俺が見てるのと一緒にだな」

遼祐「ジヨ カーおもしろいですよね!」

英樹「科捜研も面白いよな」

梓「……話に着いていけない」

唯「まあまあ、じゃあ次の質問行こつか。はいあずにゃん」

梓「私が読むんですか?」

唯「うん」

梓「じゃ、じゃあ……、GST先生からの質問です」

【遼祐君、海以外に嫌いなものを教えてください】

梓「ですって」

遼祐「海以外で?あゝ、暗いところ」

梓「意外とビビリ!」

遼祐「ビビリとは失礼な。とにかく嫌いなんだよ」

英樹「他には?」

遼祐「幽霊」

英樹・梓「(ビビリだ……)」

唯「(はうゝ……ビビりなりょうくんかぁいいよゝ、お持ち帰りしたいよゝ!)」

梓「他には何かありますか?」

遼祐「唯」

唯「えっ!？」（唯に電流走る）

英樹「じゃあなんで付き合ってるんだ」

遼祐「いや、嫌いなところもあれば好きなところもあるって意味ですよ」

唯「どんなところが嫌いなのです!？」

遼祐「場所を構わずにスキンシップしてくるところ。せめて教室はやめて」

唯「うう……」

梓「そこは遼祐先輩に同感です。私の教室に来た時も抱きしめてくるんですから……」

唯「うう……」

英樹「まあまあ、その辺にしてやれ。そこはまた今度別の機会で話をすればいいさ。そうだろ? 遼祐」

遼祐「へ? あ、ああ、はい……」

梓「英樹さんがリーダーシップをちゃんと発揮してる……。かつこいい……」

英樹「あ、梓、あんまりここでそういう事を言うな、恥ずかしい……」

梓「英樹さん、家でもそんな反応するじゃないですか」

英樹「そっ、それはだな!」

遼祐「あゝはいはい。んじゃ次行きましようね」

【遼祐君に質問何ですが、ダンボールに軽音部メンバー（猫ミミ）が入っていたらそれぞれにどんな反応をしますか?】

遼祐「なんでこの質問を採用しやがったバカ作者! どう反応すりゃいいんだ! メンバーの内二人はそこにいるんすっけど!」

唯・梓「じー」

遼祐「見つめるな!」

英樹「俺も軽音部のメンバーの中に入るのか？できれば入れてほしくない」

遼祐「心配しなくても入れませんから」

英樹「……よかった」

梓「あ！でも英樹さんのネコミミも見てみたいです！」

唯「うーん、あつ！似合うかも！」

梓「実はですね、英樹さんってこんな恥ずかしい格好を」

英樹「やめろおお、梓ああ！！」

遼祐「ま、まあね。うん。気にするなって。えっと、質問の内容だけど……」

唯「じゃあまず漣ちゃんから！」

遼祐「なんで漣から？」

梓「漣先輩、あたりまえって言うか……ネコミミ似合うんですよ」

遼祐「ふーん。……んじゃ襲うな」

唯・梓・英樹「……」

遼祐「なんだよその目！嘘に決まってるだろうが！！」

唯「いや、でもりょうくんのそういう言葉は……」

梓「本気っぽいですから」

英樹「同感だな」

遼祐「あんまりだろうが！！」

唯「じゃあムギちゃんは？」

遼祐「細ねえ……って言うか案外細の方が似合ってた」

英樹「……あゝ、確かに分かる気が」

梓「……」

英樹「……」

梓「……浮気者」

英樹「すまん、悪かった」

遼祐「なんだろう、こいつらの未来が見えた気がする。一生尻に敷かれる様な気がしてきた」
唯「尻に敷かれるって？」

遼祐「うおっほん、……ああ、紬のネコミミの話だが、まあ多分その場になるとどんな反応すればいいか分かんと思う。それに……」
英樹「それに？」

遼祐「……下手な事するとどっかの凌に怒られそうな気がして……」

英樹「……ああ、そっか」

梓「誰です？」

遼祐「紬の未来の嫁」

唯・梓「え！？」

英樹「嘘だ。本当かどうか分からないが俺たちはそうであってほしいと勝手に願ってるだけだ」

梓「はあ……」

英樹「ごほん、それじゃあ次は律だったらどうするんだ？」

遼祐「律かぁ……なんだろうなあ、あいつは……まあ……ね、あいつもあいつで下手な事するとうるさい人がいるし」

唯「誰？」

遼祐「作者の弟。あと友人」

梓「ああ、そういうことですか」

唯「じゃあ、次はあずにゃん！」

梓「わ、私もですか！？」

英樹「……どうするんだ？」（目が笑ってない）

遼祐「……大丈夫です。なにもしませんから。ダンボール閉じて英樹さんの所に送りますから」

梓「あ、それをお願いします」

英樹「はいっ！？俺も対処に困るんだが！？」

梓「その、先輩に私のネコミミ、見てもらいたいから……ダメですか……？」

英樹「……」（ダウン）

唯「あずにゃんも随分とレベルアップしたね」

遼祐「……レベルアップって言うか、作者の陰謀だろほとんど」

英樹「それじゃあ、最後は唯だが……」

遼祐「なんかいつのまにか生き返ってる!？」

唯「わたしは……なにやっても大丈夫だよ……?」

遼祐「……梓、この後俺にネコミミ貸せ。唯、明日は学校休んで俺の家で」

英樹「学校だけは行け。じゃあ次の質問へ。僚介先生から3つの質問の1つだな」

梓「いつのまにか英樹さんが仕切ってる!？」

【今後の政治の行方はどうなるのでしょうか?】

遼祐・唯・英樹・梓「……」

唯「ほ、ほらりようくん、日ごろ新聞読んでる力を見せる時だよ……?」

遼祐「ああ、えつと、そうだなあ……」

英樹「まあ議員の一人一人がどうするべきかな」

梓「!？」

英樹「まず菅総理なんだが……」

(ここから先はあまりにも英樹さんが喋りまくっているのでカットさせていただきます)

英樹「……ぐらいだな」

遼祐「……俺が話す予定だったのに」

唯「ま、いいんじゃないかな……?りようくん、分からなかったんだから……」

梓「やっぱり、嘘だったんじゃないですか」

遼祐「うるせえやい!ほつとけ!とにかく、議員のみんなが協力しあうべきじゃないかなと俺は思う」

梓「急に話し始めた!」

遼祐「そりゃ、確かに色々言いたい事はあるかもしれないけど、そ

んでも同じ日本人として、自分の国の事ぐらいはきっちり協力してまとめればいいなって俺は……」

唯「……か、かつこいい！」

英樹「いや、確かにお前の言うことも一理あるが……」

遼祐「アンタはもう黙っててください！！次の質問行きますよ！」

【地球温暖化をくい止める方法は？】

遼祐「ほっしーと松岡修造とジャムプロを地球から取り除くべきだと」

梓「何の解決にもなりませんよ！？って言うか誰ですかほっしーって！」

英樹「俺たちにはレベルが高い質問なのかもな。じゃあ次へ」

【ボウリングは好きですか？あと最高スコアは？】

遼祐「ボウリングか……そいや、最近してねえなあ」

唯「わたしはこの前憂と一緒に رفت たよ！」

梓「どうだったんですか？」

唯「えっと、憂が251点で……、わたしが145ぐらいだったかな？」

英樹「どんだけ差が開いてるんだ！……まあ、憂はなんでも出来るから仕方ないか」

唯「酷いよお兄ちゃん！わたしだって本気を出せば！」

梓「本気を出してあの点数ですか？」

唯「……あずにゃあん、冷たいよ」

遼祐「へいへい、分かったよ。ちなみに作者って、192ぐらいだったって。俺は……最近やってねえから分かんねえや」

梓「そう言えば、英樹さんとこの前行きましたねボウリング」

英樹「ああ、あれは酷かった……」

遼祐「どっちが勝ったんだ？」

梓「英樹さん、本気出しすぎて……唯先輩と憂のより酷いと思いますよ」

英樹「……まあ、そういうことだ」

遼祐「案外、負けず嫌いなところがあるんだ英樹さん。それじゃ、次のコーナーです！」

『けいおんLLLL！いんふおめくしよん！』

唯「このコーナーは、けいおんLLLL！の最新情報をお届けするコーナーです！」

遼祐「他にも色んなこの小説家になるうについての情報や、原作やアニメのけいおんの情報もお届けします」

唯「じゃあ、最初は……お兄ちゃんとあずにゃん、お願いします」

梓「はい、えつと、私たちが出演している『けいおん！Fragment』の最終回が公開されました」

英樹「是非、御覧ください」

唯「わーい、最終回だよ、どうなるんだろうね？りょうくん！」

遼祐「梓と怜奈に萌える話だった」

唯「……え？」

遼祐「嘘だ。冗談だよ。すっげえおもしろいから、是非ご覧ください！えつと次は……」

唯「あ、そういえばけいおんLLLLの短編小説が公開されたよ！」

英樹「ああ、あれか。けいおん！Fの続きと呼ばれた」

梓「そうなんですか!？」

遼祐「作者が勝手にそんな裏設定作ってる」

唯「伝説さん、勝手にそんな設定作っちゃだめだよ……」

伝説「唯がそういうなら……」

遼祐「勝手に出てくるな！お前は外で見てろ！！」

伝説「えゝ、鮮血さんも来てるぞ」

英樹「あいつ……何やってるんだ。ちゃんと執筆活動しろよ」

鮮血「ああ、ごめん」

遼祐「もういいから！とりあえず伝説は出ていけ！！あと鮮血さんもすいませんがご退場願います！！！！」

伝説「ちえゝ、せつかく来てやったのに……」

遼祐「まったく……」

英樹「以上、インフォメーションでした」

『ゆいちゃんのかawaiiせりふこゝなゝ！』

遼祐「このコーナーは唯が可愛いと思う様な台詞を言うコーナーです」

唯「わゝい！」（パチパチ）

遼祐「つまり俺得コーナーです」

梓「本当に惚れこんでるんですね、先輩」

遼祐「ほつとけ。えっと、じゃあ台詞だけど……。あ、鮮血先生の投稿だな」

英樹「どうせロクなのじゃないんだろっ……」

【私はりょうくんよりお兄ちゃん派です】

遼祐「唯、分かってるな。言ったらお仕置きが待って」

唯『私はりょうくんよりお兄ちゃん派です』（ニコッ）

遼祐「……」

英樹「遼祐！落ち着け！！」

遼祐「英樹さん、ちよつと鮮血さん刺してきてもいいですか？」

英樹「やめろ！これは冗談なんだから！！」

梓「酷いです先輩！やっぱリスコンだったんですね！！」

英樹「何の話だ梓！？俺は梓一筋だ！」

唯「りょうくん落ち着いて！わたしはりょうくん一筋だから！」

遼祐・梓「……」（ポッ）

遼祐「……唯」

梓「……英樹さん」

英樹・唯「？」

遼祐・梓「……結婚しろ（してください）」

唯「え！？」

英樹「いやいや、ちよつと待て！まだ就職も決まってるのに……」

第一俺たちはまだ学生で

梓「いやです。結婚しましょう英樹さん！」

遼祐「唯、子供の名前は柚^{ゆり}でいいよな？」

唯「！！！？……子供……」（プシュー、パタリ）

英樹「唯！？」

梓「さあ英樹さん、今からドレスを見に行きましょう！」

英樹「だから待て梓！！鮮血！！お前が変な事言わせるからこうなつただろうが！！覚えてろよ！！」

（この後、二人ともなんとか冷静になりましたとさ）

『ふり〜と〜く！』

遼祐・梓「取り乱してすいません……」

唯「なんだろう、どこかで見たようなシーンだよ」

英樹「気にするな唯。見たんだから」

遼祐「それにしてもなあ、まさかねえ、英樹さんがシスコンだったとは。たびたび感想で言われてたけど」

英樹「だから違うと言ってるだろ！」

梓「まさか、先輩……私と憂や唯先輩の姿を重ねて」

英樹「なんでそうなる！！あとその話し方だと唯と憂が死んだみたいだろ！」

唯「え？わたし知らない間に死んでたの？」

梓「……唯先輩は黙っててください」

遼祐「それにしても、アンタら本当に出来て一日のカップルなの？どう考えても前から付き合ってるようにしか……」

梓「だ、だってそれは……、あの後英樹さんが……」

遼祐「ああ、そうか。やつちやつたか」

英樹「梓！誤解を招くような事を言うな！！」

唯「……お兄ちゃん、すっごい弄られてる」

鮮血「元々そういうキャラですから」

英樹「だからお前は出てくるな！！」

遼祐「と言う訳で、そろそろお別れの時間がやってきました」

唯「あつという間だったね」

遼祐「どうだったお二人さん」

英樹「色々言いたい事があるが……、まあ楽しかったな」

梓「私もです！また機会があつたら是非呼んでください！」

遼祐「分かった。そんじゃ今度は女装した英樹さんと一緒に……」

英樹「それだけはやめてくれ」

遼祐「ですよね」

唯「それじゃあ……」

遼祐・唯・英樹・梓「まったね!!」

第4回「仲が悪い奴ほど協力すると無敵」(前書き)

伝説

「今回の作業用BGM」

『Emphatic - REVELLION -』

『Zips』

『ふわふわ時間(唯ver)』

遼祐

「誰も聞いてねえよそんな事!!」

……ラジオ、更新遅くなってすみませんでした……。

バカ作者に代わり、お詫び申し上げます……。」

今回のゲストは、

『桜が丘高等学校に舞い降りたひねくれ者』放課後アンバランス
』

の主人公、瀬光紅凌くんと、琴吹紬ちゃんです。

ちなみに紬の口調が少しおかしいかもしれません。注意してください。

紬って口調が難しい……。

第4回「仲が悪い奴ほど協力すると無敵」

遼祐「……久しぶりのラジオだな」

唯「……だね」

遼祐「……作者、もうサボらない様にしてね」

唯「……だね」

遼祐・唯「……」

凌「お前ら、ラジオする気あんのか」

遼祐「おまえが来なかったらする気は出てたな」

凌「ちつ、だから出たくなかったんだよ……」

遼祐「俺だって出たくねえよ。ったく、^{作者}なんであのバカこんな奴をゲストで呼んだんだよ……」

伝説「アンバランスが今盛り上がってくるから」

遼祐「だから勝手に乱入してくるなって言っただろうが!!」

紬「まあまあ。それより、お茶にしよう?」

遼祐・唯「はい!」

凌「……ああ」

OP (U t a u y o ! ! M I R A C L E)

遼祐「もぐもぐ……こんちわ、パーソナリティの日暮遼祐です」

唯「同じく、パーソナリティの平沢唯です！」

遼祐「さて……夏休み終わっちゃったよ……」

唯「そうだね……。また学校だよ……」

遼祐「まあ、いよいよ学園祭だし、2学期も頑張ろうぜ」

唯「うん！」

遼祐「さて、それじゃあ今回のゲストを紹介しよう！」

軌融屢先生が執筆中の『桜が丘高等学校に舞い降りたひねくれ者』放課後アンバランス』のヒロイン、琴吹紬です！」

凌「おい待て、俺はどうした」

遼祐「え？お前モブキャラじゃなかったっけ？（笑）」

凌「……殺す」

遼祐「上等だ。表出ろ。いいかげん決着付けてや」

唯「あ、メールだ」

紬「唯ちゃん、ラジオの時は電源を……」

唯「ごめんね。あつ、お兄ちゃんからだ！」

遼祐・凌「英樹さん!？」

唯「えつと……二人とも、喧嘩せずにちゃんとラジオやってねだつて」

遼祐「……まあ、英樹さんが言うなら仕方ない」

凌「ちつ、今回だけだからな、お前と仲良くするのは」

唯「……なんでこんなに仲が悪いんだろう二人とも。」

それじゃあ、最初のコーナー！」

『じこしょうかいこ〜な〜』

遼祐「このコーナーは、ゲストの人が自己紹介をするコーナーです」

唯「じゃあ、最初は凌くん！」

遼祐「え、俺この前やったじゃん」

唯「あつ！アンバランスの方の凌くんだよ！」

遼祐「なんだお前かよ」

凌「当たり前だろ。……って、自己紹介しないといけないのか？」

遼祐「まあ伝統行事だからな。諦めろ」

凌「めんどせえ……。あゝ、瀬光紅 凌だ。以上」

遼祐「アホか！もうちょつと紹介する事ぐらいあんだろ！？」

凌「他に何があるんだよ」

紬「軽音部所属ですか！」

凌「それは別に紹介しなくても分かるだろ！」

遼祐「いやいや、紬が正しいぞ。みんながみんなアンバランスの事

を知ってるわけじゃないし」

凌「……」

唯「りょうくん」

凌・遼祐「どっちの」

唯「……LLLLの」

遼祐「どした」

唯「……またメールだよ。お兄ちゃんから」

遼祐「今度はなんだ」

唯「グダグダだって」

凌「こいつが悪い」

遼祐「お前がさっさ言わないからだろうが！！」

唯「じゃあ、今度はムギちゃん！」

紬「はい。えっと、琴吹紬って言います。軽音部ではキーボードを担当してます」

唯「ムギちゃんってピアノやってたんだよね？」

紬「4歳の頃からしてたの」

唯「(ベテラン……ッ！)」(唯に電流走る……！)

紬「あと、作曲も担当してます！」

唯「ムギちゃんの作る曲ってすごく可愛いよね。澪ちゃんの歌詞も可愛いからどんなにいい曲が出来てるよ！ありがとねムギちゃん！」

紬「ううん、気にしないで。あつ、あと軽音部のみんなが食べるお茶やお菓子も持ってきてます」

唯「それがすごく美味しいんだよ！あ、でねでね、ムギちゃん
は……」

遼祐「……なんか置いてけぼりくらってね」

凌「お前のせいだ」

遼祐「いやてめえだ。とりあえず、次のコーナーです！」

凌「お前ら、いつもこんなグダグダなのか」

遼祐「……ほつとけ」

『みんなのしつもんこな〜！』

唯「このコーナーはみんなの質問に答えるコーナーだよ！」

遼祐「じゃあ早速行ってみよう！……凌、頼む」

凌「なんで俺なんだよ、めんどくせえ……」

遼祐「（今お前が読めば、紬の評価は上がるぞ）」（こそこそ）

凌「今すぐ質問の紙を渡せ」

遼祐「計画通り！！」

凌「えつと……ノンキさんからの質問」

【遼祐君に質問です。プロポーズするとしたらいつ、どこで、どんなシチュエーションでやりますか？】

遼祐「……どうすんの凌くん」

凌「お前への質問だ！！」

紬「どうするの遼祐くん！」（うきうき）

遼祐「落ち着け紬。……えつとだな……」

唯「……」

遼祐「そんな眼で見ないでくれ。なんか恥ずかしい。

えつとだな……、やっぱりこんな感じだな」

妄想タイム

遼祐「……そいや、ここでお前と会ったんだよな」

唯「そうだね。この樹の下でわたしが座ってるのをりょうくんが見つけたんだよね」

遼祐「もう7年か……なあ唯」

唯「ん？」

遼祐「大学も、卒業した事だし……。あゝ、その……。結婚、するか」

唯「……いいの……？」

遼祐「当たり前だろ。俺が結婚しようって言うてるんだから」

唯「……うん！」

遼祐「ありがとな、唯……」

唯「幸せに、してね？」

遼祐「お互い協力しあえばな」

唯「うん……！」

遼祐「……ムフフ」

凌「こいつ、目が逝ってる……！常人の神経じゃねえ、切れてやがる……！！」

唯「……嬉しいなあ、そんな感じなら。でも」

遼祐「どした？何かあるか？」

紬「ダメ……！」

遼祐「……は？」

凌「紬？」

紬「あまりにも普通すぎて逆に感動が薄れちゃってる……もうちょっとかっこいいプロポーズを……！」

遼祐「……分かった。分かったから落ち着いてくれ」

唯「じゃあ、本番の時はよろしくね？」

遼祐「……はい。じゃあ次の質問、紬よろしく」

紬「はい。えっと……陽亮さんからの質問！」

【けいおん！原作終了についてどう思いますか？】

遼祐・凌「……マジ？」

こっからは二人だけの世界（決してBL的な意味じゃないよ！）

遼祐「待て待て、落ち着け。つまりあの漫画版の唯に会えないのか……！？」

凌「紬に……紬に会えない……うわあああああ……！」

遼祐「嫌だ……、唯……頼む、行かないでくれ……！！もう一度、せめて原作初期のニーソバージョンで帰って来てくれ……！！」

凌「おい遼祐……分かってるな」

遼祐「一時休戦だ。今からかきふらいを殴りに行くぞ。なんとかしてでもけいおん！を続けさせるぞ……！！」

凌・遼祐「うおおおおおおおおおおおおお……！！」

以上

唯「あ、お兄ちゃんからメールだ」

紬「今度は？」

唯「えつとね、かきふらい先生を倒しちゃったら自分たちも消えちゃうよだって」

紬「……流石、英樹さんですね。いつもの通り冷静です。以上、質問コーナーでした」

『けいおんLLLL！いんふおめくしょん！』

遼祐「……なんかお知らせする事ある？」

凌「お前のとこの小説の情報とか」

遼祐・唯「……」

凌「悪い」

遼祐「そういうお前のところだって……」

凌「……」

遼祐「ごめん。悪かった。謝るから」

紬「9月9日発売の『まんがタイムきらら』で、けいおん！が完結します」

唯「ついに感動の最終回……。みんな、買ってね！」

紬「唯ちゃん、勝手に宣伝しちゃって大丈夫かしら？」

唯「大丈夫だよムギちゃん。前もしてたから。以上、インフォメーションでした！」

『ゆいちゃんのかわいいせりふこ〜な〜！』

遼祐「このコーナーは唯が可愛いと思う様な台詞を言うコーナーです」

唯「わ〜い！」（パチパチ）

遼祐「つまり俺得コーナーです」

凌「この前でも見たぞそれ」

遼祐「デジャヴだよそれは。デジャヴのヴの発音が難しいぜ」

凌「うぜえ……」

紬「今日はどんな台詞なの？」

唯「えつとね……」

【りょうくんはわたしの大切な人だから、みんな取らないで（涙目で）】

遼祐「……待ってました。待ってましたよこっこの！！」

この前のあれは酷かったが、今回は違う！！俺は無敵だ！強くて賢い！リア充だあああ！！」

凌「……こんな奴が唯の彼氏なのかよ」

紬「でもかつこいいところはかつこいいから、そこを唯ちゃんは好きになったんじゃないかな？」

凌「まっ、待て！今遼祐の事……」

紬「え、どうしたの凌くん？」

凌「……鬱だ、死のう」

遼祐「まあまあ、落ち着けて凌。今度飯おごってやつから」

凌「お前に奢られるくらいなら緋龍に奢ってもらっ。……いや、あいつにも奢られたくねえな……」

遼祐「あゝ、お好きにどうぞ。さて、それでは唯ちゃん！どうぞ！！」

唯「りょうくんはわたしの大切な人だから、みんな取らないで……」

（涙目）

遼祐「うがつ……ッ！！！」

凌「遼祐が萌え死んだ……。まあこいつらしい最後なのかもな」

唯「りょうくん！！死んじややだああ！！！」

紬「やっぱラブラブね、二人とも」

凌「……俺も、いつか……」

紬「どうしたの？」

凌「……なんでもねえよ。んじゃ、このコーナー終わりな」

遼祐「かつてに……！お前が……！！司会やってんじゃねえ……！！」

遼祐「と言う訳で、そろそろ終わりの時間が迫ってきました」

凌「お前コーナーが移る間に何があったんだよ！？なんで復活してんだよ！？」

遼祐「……まあ、色々だね」

唯「大人の事情って奴だよ！えっへん！」

紬「唯ちゃん、威張って言う様な事じゃあ……」

凌「しかも何か使い方が間違ってるぞ」

唯「二人とも、どうだった？」

遼祐「（話をそらした……）」

紬「すつごく楽しかったです！また呼んでね！」

凌「……まっ、よかったんじゃねえの」

遼祐「素直じゃねえなあお前」

凌「うるせえよ、黙ってる」

遼祐「……まあ、これからもよろしくな、同じオリ主として」

凌「……ちっ」

唯「じゃあ、りょうくと凌くんが仲直りしたと言う事で……」

遼祐「なんか面倒だなふたりもりようがいます。お前改名しろ」

凌「お前がな」

伝説「まあまあ二人とも、喧嘩はよせって」

軌融屢「なんであんなに仲が悪いんだろあの二人」

凌「なんでお前がいるんだよ、あっち行け!!」

遼祐「伝説も消える!!………ったく、何やってんだあいつ……」

唯「え、えつと………それじゃあ気を取り直して……」

唯・紬「またね!!」

声の出演

日暮遼祐 前野智昭

平沢唯 豊崎愛生

瀬光紅凌 櫻井孝宏

琴吹紬 寿美菜子

伝説・改 清水秀光

軌融屢 小野大輔

遼祐「何勝手にクレジットしてんだよ!!そんで勝手にCV決めるな!!」

伝説「いやいや、鮮血さんの活動報告でCV決めてたし」

遼祐「……パトラッシュ、僕はもう疲れたよ」

第5回「ハーレムは男のロマン」(前書き)

遼祐

「タイトルがあんまりだろうがっ!!」

伝説

「まあまあ。……さて」

遼祐・伝説

「ラジオ一か月もほったらかしにしてしまいました……」

伝説

「これからは、週に1回は必ず投稿いたします」

遼祐

「なんでほったらかしだったんだよ？」

伝説

「本編とかで……」

遼祐

「言い訳はよろしい!!」

伝説

「……とにかくすみませんでした！」

それと、SUN先生、翔くんをちょっといじりすぎました! すいません!!」

遼祐

「……それでは、どうぞ」

伝説

「今回のゲストは、SUN先生が執筆中の小説『K・O・N・N
E・X・T　E・P・I・S・O・D・E』の春藤翔くんです！」

遼祐

「……ひとりだけ？」

伝説

「はい」

第5回「ハーレムは男のロマン」

遼祐「突然ですが問題。ここ最近、映画化されることが決定した、もしくは上映中のアニメ全て答えなさい」

唯「えつと、戦国BASAR でしょ、ガン ムOOでしょ……あれ？まだあったかな？」

遼祐「……けいおん！だあああああ！！！」

唯「あつ、そうだった！」

遼祐「つたく、自分の作品を忘れるなよ」

唯「ご、ごめんごめん……あつ、でも映画化するのは……」

遼祐「イエス、お前らのけいおん！だけで、我らがLLLLは映画化しナイツ」

唯「そつか……はしゃいでごめんね？」

遼祐「いいよ、気にすんなって」

翔「……あの、そろそろ始めましょうよ、二人とも……」

OP）（U t a u y o ! M I R A C L E）

遼祐「皆さんこんにちは、パーソナリティの日暮遼祐です！」

唯「同じくこんにちは、平沢唯です！」

遼祐「さて……やってまいりましたLOVE！LOVE！RADIO！略してLLR！……更新遅れちゃってスイマセン……」

唯「まあ、しょうがないよ。先生が存在そのものを一時期忘れちゃってたんだもん。（実話）」

遼祐「存在を思い出させてくれた友人に改めて感謝のお言葉をお送りします。んじゃ、今回のゲストを紹介します！」

唯「今日のゲストは、今が旬のFF小説、『K・ON！』NEXT EPISODE』の主人公、春藤翔くんです！」

翔「よ、よろしく願います！」

遼祐「まあまあ、緊張すんなよ。気楽にやれって」

翔「いや、その……なんかまさか俺がラジオに出れるなんて思ってた」

遼祐「何言ってるんだよ。このラジオだってそんなとんでもない人気があるラジオって訳じゃないんだから」

唯「……言ってる寂しくなったよりようくん」

遼祐「同じく……」

翔「は、ははは……それじゃあ、お馴染みの最初のコーナーです」

『じこしょうかい』な〜！』

遼祐「このコーナーは、ゲストの人が自己紹介するコーナーです」

唯「じゃあ翔くん、お願いします」

翔「えっと、春藤翔って言います。軽音部所属で、ドラムやってます」

遼祐「珍しいよな、ドラムの主人公って」

翔「梓達がメインのストーリーですからね。ドラムがいないから、俺がやってます」

唯「そっか、わたしたちが卒業した後のお話なんだね」

翔「ホント……疲れます（色んな意味で）」

遼祐「そうか。既にハーレム状態になっていた」

伝説「帰れこのエロ主人公」

遼祐「……お前が帰れッ!!」

翔「最近、作者の人がよく来ますね」

遼祐「迷惑以外の何物でもないわ畜生。ところで、なんで今回ひとりなんだ？」

翔「……お察してください」

遼祐「了解^ヤ」

唯「お誕生日はいつなの？」

翔「ああ、8月26日です」

遼祐「っーことは乙女座か」

翔「……ですが何か？」

遼祐「乙女座の私は、センチメンタリズムな」

『みんなのしつもんこゝな〜!』

遼祐「って途中で終わらすなあああ！！！」

唯「まあまあ。このコーナーは、皆さんから頂いた質問に答えるコーナーです」

翔「じゃあ、早速行きますか」

遼祐「だな。んじゃ最初の質問。これは鮮血の刻印さんからの質問だな」

【唯に離婚届を渡されたら、遼祐くんはどうしますか？】

遼祐「……」（パタリ）

翔「こんな感じになります」

唯「だ、大丈夫りょうくん!？」

遼祐「……柚の事、頼んだぜ」

K・O・N・！・ N E X T E P I S O D E 遼殺し編 完

翔「……終わらすなっ!！」

遼祐「ですよ〜」

唯「……でも、渡されちゃったら本当にどうするの……?」

遼祐「……」（パタリ）

唯「りよ、りょうくん!！」

翔「……さっきのがちゃんとした反応だったのか……。え〜、結論は『気絶する』です。それじゃあ次の質問」

【自分の彼女が、他の男性と歩いていたらどうする？】

遼祐「……」（ぶくぶく）

唯「りようくんが泡吹いたよー!」

翔「これも鮮血の刻印先生からの質問だな。……あの人、遼祐の事嫌いなんだろうか？」

遼祐「せんせいじゃなくて……、霧明と英樹さんだろ……」

翔「生きてたんですか!？」

遼祐「勝手に殺すな!ーそんなに死んでほしかったか!？」

翔「い、いやそうじゃなくて……。まあ生きてて良かったです」

遼祐「で、お前はどうかんだよ？」

翔「いや、俺彼女いませんし……」

唯「じゃあもしいたらと言う事で!」

翔「えっと……。……ブクブク」

遼祐「だあああ!ー!翔、大丈夫かあああ!？」

K - O N ! ! N E X T E P I S O D E 翔殺し編 完

遼祐「だから終わらさなっちゅうに!ー!まあ、結論は二人とも気絶すると言う事で」

翔「……まあ、気絶は冗談として」

遼祐「んじゃどうするんだよ」

唯「突っ込まないの!？」

遼祐「こればかりは突っ込んだら負けだと俺は思ってる。それで、

どうなんだ翔？」

翔「とりあえず、俺は真相を聞きますよ。もしかしたら何か事情があるかもしれないし」

遼祐「俺は……その場でそいつに掴みかかるだろうな」

唯「もしお兄ちゃんだったら？」

遼祐「……まあ、うん。その時はそんな時だ」

翔「怖いんですね、やっぱり英樹さんの事……」

遼祐「義兄だからな。まあ、そんな事は無いと思うけどな」

翔「以上、質問コーナーでした！」

『しんすとりりていあんこ〜な〜！』

遼祐「さあ、今回から始まりました新コーナーです！」

唯「このコーナーは、日常ほのぼのである『けいおん！』が、もしこんなストーリーだったら？と言うコーナーです！」

翔「……何に感化されたんですか」

遼祐「こらこらそこ、変な事言わない。試験中は静かに」

翔「どこが試験ですか！！これが試験だったら俺らもう既に全教科0点だ……！」

唯「ナイスツッコミ！流石主人公だね！」

翔「……もうやだ」

遼祐「さて、今回のテーマはこちら！」

【バトル】

遼祐「……既にやってるね」

唯「やってるよね」

翔「やってますね」

遼祐「……ま、まあ気にするな。とりあえず、どんな感じになると
思う？」

唯「そうだなあ……やっぱりこんな感じかな？」

遼祐「さあ、始めようか……終わらない戦いつて奴をよ……」

和哉「ふははははは！貴様がこの俺に勝てると思ってるのか！
？この下等人種がつ！！」

遼祐「てめえ……、いつまでもそうやって人を見下しやがって！
生きて帰れると思うなよ！？」

和哉「な、なんだ……？体が、紫色に……」

遼祐「貴様には分かるまい！この俺の、体を通して出る力が！！」

和哉「き、貴様……！！」

遼祐「お前は生きてはいけない人間なんだ！！一方的に撃たれ
る、痛さと怖さを教えてやる！！」

和哉「くつ、貴様の魂もいっしょに連れていく！！」

遼祐「いけえ！！」

和哉「ぐはあつ！！」

遼祐「……俺がまんま力ミー な件について」

唯「うゝん、やっぱダメかなあ……」

遼祐「これはむしろ翔が主人公の方がいいだろ」

翔「なんで俺なんつか!？」

遼祐「いや、なんとなくその辺の分野が強そうだし」

翔「俺、バトル系漫画の主人公じゃありませんよ!？ほのぼの軽音楽小説の主人公ですよ!？」

遼祐「大丈夫だろ。バットか鉈があれば問題ねえよ」

翔「バトルって言うかそれサスペンスホラーになってますよ!？」

遼祐「……まあ、あれだな」

翔・唯・遼祐「『けいおん!』に『バトル』は合わない」

遼祐「素人が手を出していい組み合わせじゃないみたいだな」

唯「もつと文章表現にストーリー構成、つまり文才が無いとダメだ
ってことだね」

翔「……ですね」

伝説「そうか。俺は文章力があつたのか」

遼祐「齒あ食いしばれ!そんな作者、修正してやる!」

『ゆいちゃんのかわいいせりふこゝな〜!』

遼祐「このコーナーは、俺得コーナーです」

翔「めんどくさくなつて略しましたよね!？」

遼祐「気にしたら負けだ。さて、今日はどんな台詞かな?唯、

おねがゝい」

唯「了解しました!えっと、今日は……」

【おかえり、りょうくん。

突然だけど、離婚しよう。

嘘だよ、りょうくん。今日はエイプリルフルだよ】

遼祐「……誰からのだ」

唯「鮮血先生からだよ」

遼祐「そうか」

翔「あの、言うんですか……?」

唯「だって、それが決まりだし……」

遼祐「唯、言っているよ。どうせエイプリルフルだもん!問題ない!」

翔「……じゃあなんでさっきまでショック受けてたんですか」

唯「えっと、じゃあ……」

唯「おかえり、りょうくん。

突然だけど、離婚しよう。

嘘だよ、りょうくん。今日はエイプリルフルだよ」

遼祐「ぐわらっぱ!!」

翔「わあああ!! 遼祐さんが吐血した!!」

唯「りょうくんごめん! 大丈夫!？」

遼祐「……最後に、指パッチン、鳴らしたかった……」(パチン)

翔「鳴らしてるし」

唯「りょうくうううううん!!!!」

K・O N!! NEXT EPISODE 遼殺し編 完

翔「もう飽きたわ!! いいかげんにしろ!!」

遼祐・唯「以上、可愛い台詞コーナーでした」

翔「生き返ってるし!!」

翔「……なんか、疲れた」

遼祐「お疲れさん。向こうでも頑張ってくれ」

翔「せっかく修学旅行から脱出できたと思ったら……これかよ……」

唯「まあまあ。あつ、憂とあずにゃんと純ちゃんとお幸せにね」

遼祐「結婚式には是非」

翔「俺は……ハーレム決定なんですか……?」

SUN「その通りだ！」

伝説「頑張れ翔くん！お前がナンバーワンだ！」

翔「もう嫌だあああああ！！！！」

遼祐「……流石に可哀想だな。すまんかった翔」

翔「……いえ、うん。大丈夫です。修学旅行でフルボッコにはなれましたから」

遼祐「ですよ〜」

唯「それじゃあ……」

遼祐・唯・翔「まったね〜！！」

第6回「主人公×彼女×彼女 ドキドキフルスロットル!」(前書き)

浩史

「タイトルが色んな意味で酷くない?」

伝説

「気にするなボーイ」

浩史

「いや気にするよ。そしてこんな事して大丈夫なの?下手すると読者が離れちゃうよ?」

伝説

「……その時はその時さ」

浩史

「ダメだこりゃ……」

第6回「主人公×彼女×彼女 ドキドキフルスロットル！」

遼祐「大事な発表がある」

唯「なにになに？」

遼祐「もう気づいてる人はいるかもしれないけど、今回からこのラジオのタイトルが変更となった」

唯「まだ始めて六回目だよ！？」

遼祐「大丈夫さ。某ラジオは最初の頃は1回ごとにタイトル変えてたんだ」

唯「そうなんだ。じゃあ安心だね」

遼祐「まあ安心かどうか知らんが……まあいい。さて、もうひとつ唯「??」」

遼祐「……パーソナリティがもう一人増える!!」

ざわ……

ざわ……

唯「なん……だと……!？」

遼祐「誰か知りたいか？まあ、タイトル見れば大体予想付くだろっけど」

唯「え、でもそしたら色々と批判も出てくるかもしれないよ?」
「なんでこいつなんだ」とか「なんであれと合体させた」とか

遼祐「いやいや、確かにそうだけだな。作者はこうすればわざわざ
専用のラジオを二つ付く必要が無くなるからって事で」

唯「結局楽をしたいだけ!？」

遼祐「まあ、本当は『けいおん!』が好きな人には『なのは』を。

『なのは』が好きな人には『けいおん!』に興味を持ってもら
いたいなあって思ったからだよ。

じゃ、今回のゲスト、もとい次回から新たに加わるパーソ
ナリティの、八神はやてさんです!」

はやて「やつほ。二人とも、今日からよろしく頼むな」

唯「おお、アニメ史に残る出会いだよこれは!」

遼祐「アニメじゃねえし。ってか、歴史には残らねえよ。じゃあ、
オープニングも変えて心機一転!」

唯「『けいおん!&リリカルなのは』!」

はやて「『LOVE!GENE!RADIO!』!」

遼祐「始まるよ」!

OP
(PHANTOM MINDS)

遼祐「皆さんこんにちは!『けいおん!LOVE!LOVE!L
IVE!』魔法少女リリカルなのはLyrical Genera
tionsの主人公、パーソナリティの日暮遼祐です!」

唯「同じくこんにちは!『LOVE!LOVE!LIVE!』ヒロ
インの平沢唯です!」

はやて「こんにちは！『Lyrical Generations』
ヒロインの八神はやてやで」

遼祐「それにしても……いきなりこんな事言うのもあれだけど、はやて出てきても大丈夫なのか？まだメインヒロインなのに全然出てねえし」

はやて「大丈夫やて。2nd seasonになったら遼祐くん差し置いて活躍やから」

唯「まさかの主人公解雇！？」

遼祐「なわけあるか！はやても適当な事言っな！」
はやて「はい」

唯「そう言えば、はやてちゃんは今日はゲスト扱いなんだよね？」

はやて「そうやね。次回からはパーソナリティとして出演やね。言う訳で、次回からよろしく頼むな、唯ちゃん」

唯「うん！」

遼祐「もう仲良くなったのか。これで修羅場は回避できる……」

唯「ん？なんか言ったりようくん？」

遼祐「なんでもねっす。じゃ、最初に行ってみるか、あのコーナー」

『じこしょうかいこくな〜！』

遼祐「このコーナーは、ゲストの人が自己紹介するコーナーです」

唯「じゃあ、はやてちゃん！お願いします」（ぺこり）

はやて「了解。えっと、八神はやて言います。一応、19歳バージョンでの登場やから、二人より年上やね」

遼祐「何を言うか。このラジオでは年齢なんて関係ないんだぜ？」

はやて「あつ、そうなんや。ほな9歳バージョンに戻すな」

唯「姿を自由に変えれた！？」

遼祐「お前も出来るんだぞ」

唯「そうなの？じゃあ……」

遼祐「おお、幼女バージョンの二人だ」

伝説「このロリコン」

遼祐「そのふざけた幻想をぶち殺す！！」

はやて「あつ、作者さんも出るんやな」

唯「うん、たまに出てくるんだよ」

遼祐「ぶつちゃけ邪魔だ。以上、自己紹介コーナーでした」

『みんなのしつもんこな〜！』

遼祐「このコーナーは、リスナーと言う名の読者の皆さまからいただいた質問にお答えするコーナーです」

唯「質問は感想の方でご応募ください！」

遼祐「んじゃ、最初の質問。ノンキ先生からっすね。ご応募ありがとうございますー！」

【もし憂ちゃんが唯さんの格好していたら見破れる自信はありますか？】

遼祐「もちろんさあ。1期で見破ってたけど、胸の大きさが違うかな」

唯「……」

はやて「ん？どうしたんや唯ちゃん？」

唯「クキイイイイー！！」

遼祐「ど、どした唯！？何故『うつかり侍』モードになった！？」

唯「憂は仕方ないもん！わたしよりしっかりしてるし、可愛いから中学校の時からモテてたし……」

はやて「そうやったんやな……。せやから彼氏でも出来てずっとm

」

遼祐「そうだな。もm」

唯「放送コードに引っかけっちゃうよ！？」

はやて「気にしたら負けやで唯ちゃん。そうや、胸が小さいんやったらあたしが……」

遼祐「心配するな。つねに俺がしてるから」

唯「……話がずれてるよ。じゃあ、次の質問です。僚介先生からです！ご応募ありがとうございます！」

【明日が地球最後の日だったらあなたはどうしますか？家族をとりますか？友情をとりますか？それとも……】

遼祐「その前にその地球最後の原因を断ちに行きます」

はやて「それは無理やて、遼祐くん」

遼祐「そんなら……あれだ。俺のやはり愛を取るよ」

唯「はやて「……」

遼祐「何故見てくるし。……二人とも取るさ」

唯「はやて「ニコッ」

遼祐「なんて分かりやすいと言うかなんというか……。以上、質問コーナーでした！」

『いんふおめくしょん！』

遼祐「本編でも語りましたが、LLLLは4月をもちまして完結いたします」

唯「残念だなあ……もつとりようくんといっしょにいたかったよお」
はやて「まあ、始まりもあれば終わりもある。せやる？」

遼祐「そうだな。それに、本編終わっても短編集とかでも俺たちの活躍は続くよ」

唯「ほんと！？わーい！」

遼祐「あとは……そうだな、LLLLの後の新小説、決定いたしました」

はやて「どんなのなんや？」

遼祐「それを言ったら面白くなる。楽しみにしてな。詳細は後日と言う事で」

唯「楽しみだな。あ、 magari ようくんが主人公？」

遼祐「残念ながら、今回はオリ主小説じゃなくてクロス小説だ」

はやて「クロス小説なんやあ……、楽しみやな」

遼祐「ま、期待して待っててくれ」

遼祐「と言う訳で、そろそろお別れの時間がやってきました」

唯「はや！」

遼祐「くねえだろ。いや、今までに比べたら早いな。情けない……」

はやて「まあまあ、来週から頑張ればええことやん。それじゃ、二人とも改めて来週からよろしく頼むな」

唯「うん！」

遼祐「了解つと。それじゃあ、皆さん」

唯「はやて・伝説「さよなら」」

遼祐「なんでお前がいるんだよ!!」

声の出演

日暮遼祐 前野智昭

平沢唯 豊崎愛生

八神はやて 植田佳奈

伝説・改 清水秀光

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9781m/>

けいおん!&リリカルなのは LOVE!GENE!RADIO!

2011年2月2日18時03分発行